

日本植物病理学会報（和文誌）投稿規程

（平成7年11月25日、平成8年4月3日、平成10年5月19日、平成11年11月20日、平成12年11月25日、平成14年4月3日、平成14年8月15日、平成15年3月27日、平成17年3月28日、平成21年3月26日、平成23年11月24日、平成28年3月20日、平成28年11月12日、平成30年11月17日、令和2年12月25日、令和3年12月27日、令和4年11月19日、令和6年1月1日、令和8年1月1日 一部改正）

* 投稿票ファイルはhttps://www.ppsj.org/journal-submission_procedure.htmlよりダウンロードすること。

** オンライン版におけるカラー写真の掲載は無料とする。

1. 投稿者は原則として本会の会員に限る。ただし、共同著者はこの限りではない。また、非会員でも規定の投稿料を支払えば投稿可とする。
2. 投稿原稿は総説・原著論文・短報・病害短信・論説とし、いずれも植物病理学に関連した未発表のものに限る。
3. 投稿原稿は、本文および表・図の電子ファイル、必要事項を記入した和文投稿票ファイル*を付して、編集委員会(jgppjjp@agr.hokudai.ac.jp) あてに電子メールで送付する。
4. 投稿原稿は和文とし、投稿規定ならびに投稿細則に従ったものに限る。原稿に不備がない限り、編集委員長に原稿が到着した日を受付日(received date)とする。受付日および原稿の登録番号は1週間以内に編集委員会から投稿者に電子メールで通知される。
5. 投稿原稿は掲載可能かどうか審査されるが、最終的な採否は編集委員長が決定する。原著編集委員は原著中の字句について添削、訂正を行い、内容について著者に訂正を求めることがある。訂正を求められた原稿を1ヶ月以内に再提出しない場合は原則として投稿を取り下げたものとして処理する。原稿の審査が終了し、編集委員長が掲載上問題ないと判定した日を受理日(accepted date)とする。なお、原稿中の英文で書かれた摘要・表・図の説明はすべて、受理後、編集委員長が依頼した英文校閲者に送付し、英文校閲を受ける。
6. 受理された原稿は、英文校閲者および編集幹事長の指示に従って訂正し、最終原稿の電子ファイルを編集委員長の指定の期日までに提出する。原稿は、編集幹事の校正を経て印刷所に送付される。
7. 著者校正は原則として初校だけとする。校正は誤植の訂正だけにとどめ、内容の変更は認めない。ただし、編集委員長がやむを得ないと認めたものに限り、実費の補償を申し受けで許可がある。
8. 総説は刷り上がり8頁以内、原著論文は刷り上がり6頁以内、短報・論説・病害短信は刷り上がり3頁以内を原則とする。とくに総説では12頁、原著論文では10頁、短報・論説では5頁、病害短信では3頁を超えないことが望ましい。なお刷り上がり1頁は2100字程度である。
9. 論文中で新規に明らかにした核酸塩基配列は、著者の責任においてDDBJ/ENA/GenBankデータベースに登録するものとする。そのaccession No.を論文が受理されるまでに取得し、論文中の第1ページ目脚注ならびに本文中該当箇所（本文、表説明、図説明のいずれか）の計2箇所に記載する。
10. 会員の投稿料は無料とし、非会員の責任著者は投稿料として、掲載された論文において制限頁数内の印刷1頁につき6,000円を、超過頁は1/2頁につき7,500円を支払うものとする。ただし、会員および非会員ともにカラー印刷頁は1頁につき10,000円**を著者負担とする。その他著者のとくに指定する印刷は実費を著者負担とする。
11. 別刷は100部単位で実費を著者負担とする。
12. 講演要旨は担当座長が内容、字句等について検討し、大会委員長あるいは部会長が2次審査を行う。最終的な採否は編集委員長が決定する。講演要旨は日本植物病理学会で定めた書式に従う。
13. 掲載された論文の著作権は日本植物病理学会に帰属する。

付 則

1. この規程は令和3年12月27日から施行する。
2. 編集委員長の氏名および住所は事務局の移動に伴い変更する。

日本植物病理学会報（和文誌）投稿細則

（昭和47年6月1日制定、平成2年4月1日、平成6年4月3日、平成10年5月19日、平成11年11月20日、平成12年11月25日、平成14年4月3日、平成15年3月27日、平成20年4月25日、平成28年3月20日、令和2年12月25日、令和3年12月27日、令和5年3月5日 一部改正）

1. 原稿はMS Word 2013以降のバージョンで作成し（ファイルはdocx形式で保存すること），A4縦型に横書きし、全角40字前後/行、25行で行間隔を広くとる（7~9 mm）。なお刷り上がり1頁は2100字程度である。

原稿の左右両端は少なくとも2~3 cm、上下は3~5 cmの余白を設け、ヘッダー（各頁右隅）に、第1著者名、通し番号（ページ）を記し、レイアウトで行番号を付す。

2. 原稿は原則として常用漢字および現代かなづかいを用いた口語体とする。動植物名および外来語はカタカナとする。植物病名は原則として、日本有用植物病名目録（日本植物病理学会発行）に従う。

農薬名は原則として一般名を用い、薬品名や学術語等、不必要的欧語を使用することは避ける。

3. 投稿原稿は以下のように記述する。

a) 原稿の第1頁には表題、著者名を和文で記す。さらに著者の所属機関およびその所在地（郵便番号を記入）を上ツキ数字1, 2, 3による脚注として、下方に脚注線を引いてその下に和文および英文で記載する。Corresponding authorには上ツキ*印を付し、脚注線下最終行にそのE-mailアドレスを記す。

b) 第2頁に英文abstractを記載する。長さは原著論文では350語以内、短報・論説では100語以内とする。病害短信では、宿主一般名・宿主学名・病原体一般名・病原体学名・病害英名・病害和名（ローマ字表記）・発生年月・発生地などKeyとなる項目の記載のみに絞った1-2文で記述する。

記載方法は見出し（ABSTRACT）の次に1行空けて、著者名、年号（空欄）、タイトル、雑誌名、巻号（空欄）、頁（空欄）を書き、次に1行空けてabstractの本文を書く。さらに2行離して論文内容を的確に表す6語以内の英語句をKey wordsとして記す。Key wordsには生物名（普通名、学名のいずれか一方）、方法、実験内容等を示す語あるいは句を用いる。

abstractの記載例：

ABSTRACT

UI, T^{1*}., NAIKI, T.¹ and AKIMOTO, M.² (). A sieving-floatation technique using hydrogen peroxide solution for determination of sclerotial population of *Rhizoctonia solani* Kühn in soil. Jpn. J. Phytopathol. (): ().

A sieving and soils.

Key wordsの例：

fungistasis, *Fusarium oxysporum*, autoclaved soil, phytoalexin, late blight, *Solanum tuberosum*など
c) 本文は第3頁からとする。原著論文では、緒言、実験材料および方法、実験結果、考察（各項の表題は自由とする）、和文摘要、引用文献の各項目の順に記述する。短報・病害短信・論説では緒言、実験材料、実験結果、考察を各項目に分けずに記述し、引用文献を末尾に加える（和文摘要は不要）。

- d) 図表は引用文献のあとに、表、図、図の説明の順で、また、図表は1ページに1つずつ作成する。

4. 本文中の生物名は、原則としてその最初の記載箇所において、和名の後にカッコして学名を記す。ウイルス・ウイロイド名は、和名（英名、略号）あるいは和名（略号）の順で記載する。英名の表記については国際ウイルス分類委員会（ICTV）の基準に従って判断する（<https://ictv.global/faq/names>）。

5. 本文中の数式は $\frac{RT}{nF} \ln \frac{b}{a}$ のよう書かず、誤解を招かない限り、 $(RT/nF) \cdot \ln(b/a)$ のよう書く。

6. 表および図は以下の点に留意する。

a) 表は本文中に直接挿入せず、個々の電子ファイル（Word, Excelなど）に刷り上がり時と同様のスタイルで作成する。表中の文字は極力略字を用いて短くする。表中の注には肩付きのa), b), c)を用いる。それぞれの

- 欄外に著者名を明記する。
- b) 図は本文中に直接挿入せず、個々の電子ファイルに刷り上がり時と同様のスタイルで作成する。それぞれ頁の欄外に著者名、図の番号、希望縮尺比等の指示事項を明記する。
- c) 図は原則として著者の原図をそのまま使用できるように、約 1/2 (面積としては約 1/4) に縮尺できる大きさに描く。グラフの線の太さ、グラフ内の文字、数字、記号等は縮尺等を考慮して、適切な大きさおよび太さとなるよう留意すること。グラフは原則として、モデルに示すように四方を囲んで箱型にし、いずれの辺にも目盛りをつけること。棒線グラフ等の凡例は脚注ではなく、図中に入れ込むこと。
- d) 図に用いる写真は刷り上がり寸法の 1~1.2倍のものが望ましく、欄外に著者名、図の番号、希望縮尺等の指示事項を記入する。
- e) 原稿の表および図の表題と説明は、和文、英文のいずれか一方とし、併記しない。
- f) 学名は、本文中に既出であっても各表および図の表題と説明の最初に出てくるものは略さずに記載する。
- g) 表および図の挿入箇所は本文原稿の右欄外に第〇表、第〇図と朱書きする。
7. 冊子体に掲載する必要はないが、内容の理解に有益なもの、または形態や容量が冊子体に適さないもので、編集委員長が認めた場合は、オンライン (J-STAGE) にのみ掲載する電子付録 (Supplemental data) として追加することができる。電子付録を作成する場合は、和文の場合は付表 1、付図 1、英文の場合はTable S1, Fig. S1などとし、付表・付図とその番号・タイトル・説明はそれぞれについて同ページにまとめる。電子付録は冊子体原稿とは別の独立したファイルとする。なお、電子付録がある場合は、冊子体原稿の引用文献の直前に電子付録の項を設けて、次のように記載する。

電子付録

付表1. タイトル

8. 引用文献は本文中に引用した文献だけをリストとして著者名のABC順に配列する。第1著者が同じ場合は年号順に配列する。第1著者が同じで同じ年号の論文が複数あった場合には第1著者以降のABC順に配置、同じ年号で著者3名以上の場合は各論文の区別を年号+a, b, c…で示す。本文中で引用する場合は原則としてカッコで（著者名、年号）のように記入する。複数の文献を同一箇所で引用する場合は、カッコ内にセミコロンで区切ってリスト順に配列する。その際、同一著者の場合はカンマで区切り、年号のみまたはa, b, c…のみを配列する。未公表、準備中、投稿中、審査中の論文は「引用文献」には記載せず、本文中に（著者名、未発表）のように記述する。

9. 引用文献は以下の例に従って記述する。

- a) 雑誌名は1語のときは省略しない（例：Nature, Phytopathology等）。略記する場合には和文誌は日本自然科学雑誌総覧、日本農學進歩年報、欧文誌はWorld List of Scientific Periodicals, Biological Abstracts, Chemical Abstracts, Index Medicusに従う。
- b) 引用文献は次のように記す。ただし、とくに号数を表示する必要があるときに限り、号数を（ ）内に記し巻数の後につける。

日野稔彦・吉井 甫 (1968). *Nicotiana glutinosa*とタバコとの接木植物におけるタバコモザイクウイルスの移動。日植病報 34: 61-68.

Lumsden, R.D. and Bateman, D.F. (1968). Phosphatide-degrading enzymes associated with pathogenesis in *Phaseolus vulgaris* infected with *Thielaviopsis basicola*. Phytopathology 58: 219-227.

- c) 単行本は次のように記す。

単行本を引用する場合は、引用頁を示し、総頁を記載しない。

Plank, J.E. (1980). Plant Disease: Epidemic and Control, pp. 226-228, Academic Press, New York.

岡本 弘 (1962) . 植物病理実験法（明日山秀文ほか編）. pp. 301-334, 日本植物防疫協会, 東京.

Ellingboe, A.H. (1984). Genetics of host-parasite relations: an essay. In Advances in Plant Pathology, Vol. 2 (Ingram, D.S. and Williams, P.H., eds.). pp. 131-151, Academic Press, New York.

d) 講演要旨を引用する場合は、最後に（講要）あるいは（Abstr.）を記す。

10. 単位は以下に従って使用する。半角文字の単位の場合、数字との間に半角スペースを入れる（%， °Cは例外）。

長さ：km, m, cm, mm, μ m（ μ -ミクロンは使用しない），nm（ $\mu\mu$ -ミリミクロンは使用しない）など。

面積：km², m², cm²など。a, haは使用してもよい。

容積：kl, 1（英文中はliter(s)とし、1としない），ml, μ l（λは使用しない）など。lは使用しない。

体積：km³, m³, cm³（ccは使用しない），mm³など。

重量：kg, g, mg, μ g（γは使用しない），ng, pgなど。

時間：秒, 分, 時間, 日など、英文中ではs, min, h, day(s), week(s), month(s), year(s)などとする。

濃度：M, mM, μ M, Nなど。%は数字を伴う時および図表中のみ使用し、数字との間にスペースを入れず、(w/w), (w/v), (v/v)を表記する。g/l, mg/l, μ g/ml, ppm, ppbなどは使用してもよい。

温度：°C（数字との間にスペースは入れない。）

重力： $\times g$

分子量：単位はつけない。

その他：同位元素 ³²P, 放射線量Bq, 酸化還元電位rH, 水素イオン濃度pH。

11. その他5桁以上の数を書く時は、例えば87,547,300のように数字を3桁ごとにコンマをつけて区切る。4桁の場合は、5490のようにコンマを入れない。また頁数、引用文献中、図表中、キャプション中の数字にはコンマを入れない。また、英文の場合、数量を示す数が文章の初めにくる時にはアラビア数字を使わない。

12. 実験材料および方法において、特定の試薬、キット、機器類を用いた場合、メーカー名と本社の所在地をカッコで次のように記載する。米国の場合（メーカー名、都市名、州名、USA），日本の場合（メーカー名、都道府県名），その他の場合（メーカー名、都市名、国名）。同一のメーカーについて、2回目以降はメーカー名のみを記載する。

13. 制限酵素名, in vitro, in vivo, i.e., e.g., et al.などはローマン体で記載する。

14. 投稿の際、著者は下記に示す作成要領に従って和文投稿票に記入する。

a) 記載すべき索引事項は、以下の4項目である。

1. 病原名（主要な病原名2つ以内、または属名など）

2. 植物名（主要な植物名2つ以内、または科名など）

3. 研究事項名（投稿票中のリストより1つ選ぶ）

4. 補足事項名（原則としてこの項目は省くが、研究事項だけでは不十分な場合にのみ、論文題名あるいはキーワード中より1つ選ぶ）

b) 各項目は次の要領に従って作成する。

病原名

i) 学名を用いる。

ii) 2種の病原の場合は両者とも見出しどする。

iii) 3種以上の病原の場合は、以下のうちのいずれか1つを選ぶ。①主要な2種の病原に限る；②属またはグループでまとめる（*Fusarium* spp., *Potyvirus*など）；③病原全体を示す総称（ウイルス、ウイロイド、ファイトプラズマ、バクテリア、疫病菌、うどんこ病菌、さび病菌、線虫など）

iv) 病原が関係しない内容の場合には、この項目を省く。

植物名

i) 和名（病名目録を参照）とする。和名が無いときは学名を用いる。

ii) 2種の植物の場合は両者とも見出しどする。

iii) 3種以上の植物の場合は以下のうちのいずれか1つを選ぶ。①主要な2種の植物に限る；②科でまとめられるときは科名（イネ科、ナス科など）を用いる；③それ以外は農学的総称（食用作物、野菜、草花など、病名目録参照）の見出しど用いる。

iv) 植物が関係しない内容の場合には、この項目を省く。

研究事項名

- i) 研究事項名は1つとする.
- ii) 研究事項名は投稿票に記したリストの中から著者が選ぶ. ただし, 著者がそれ以外の事項名を新たに使用したいと希望した場合は, 編集委員長が著者と協議の上決定する.